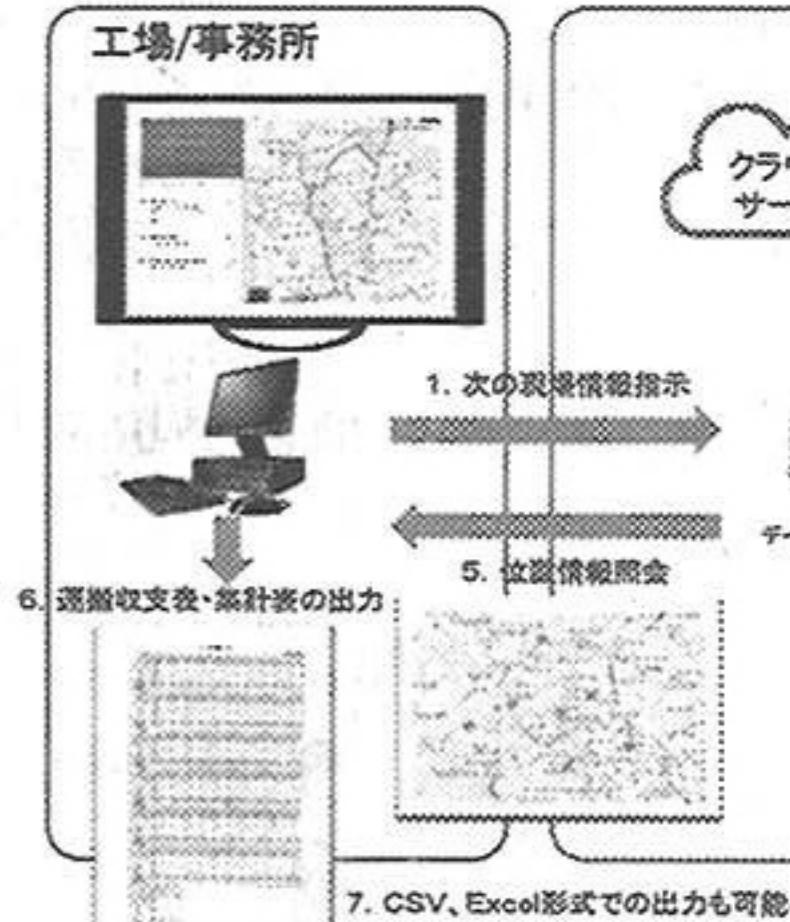


ダンプ運行をタブレット管理

運転手右にタブレット端末を手渡す事務職員

日本道路東北支店は、宮城県岩沼市のアスファルトプラント「仙台南アスコン」で同社が提案したダンプ運行管理系统「ND-LINK」を試行運用している。衛星利用測位システム（GPS）で



日本道路東北支店 岩沼でシステム試行

取得したダンプの位置情報を活用し、タブレットを介したナビゲーションシステムを構築＝システム図。手作業で進めている運搬経路の地図印刷・配布を省略し、運送状況の把握や到着時間を予測することも可能になる。運転手の負担軽減やプラントの稼働率向上に役立てる。

ND-LINKは同社が提案し、システムソリューションプランニング（仙台市宮城野区）が開発。背景には東日本大震災後のダンプ運用の過密スケジュールがある。限られた台数を効率的に運用し、運転手や事務所職員の残業時間を減らしたいとの思いがきっかけになつた。

日本道路東北支店は昨年10月からND-LINKの試行運用を開始。各現場に割ける。ダンプの台数を1現場当たり

1台削減できることが分かつた。位置情報によってダンプの戻り時間が予想しやすくなっている。稼働計画を立てやすくする。プラントの燃費を5%改善する効果も確認した。

プラントで生成されるアスファルト合材の配送状況に関する問い合わせにはスマートに応答。運転手の高齢化も進む中、タブレット画面に表示されたボタンを押すだけでND-LINKの運用が始まる操作の簡易性も実現した。

日本道路東北支店の三塚利彦製販部長は「人手不足で現場にダンプを集めのに苦労している。ND-LINKでダンプ運用の効率化を図りつつ、顧客への配達状況通知など新たな活用方法も模索しながら運用していきたい」と話した。今後、同支店発のモデルケースとして全社での本格

運用を行っている。



仙台南アスコンは日本道路スコン共同企業体」が運営。を代表企業とする「仙台南アスコン共同企業体」が運営。大林道路、ガイアート、鹿島道路も参画している。アスファルトプラントと建設廃材中間処理施設で構成。プラントで運用されるダンプの数は通常時が20台程度で、繁忙期などピーカ時には約50台となる。現在、約10台でND-LINKの運用を行っている。